

## 自然から・体験から・地域から学んで

横浜 100 団は、国際都市横浜 みなと横浜の中でも文化と歴史が今でも融合する。金沢区を拠点に活動を行っております。金沢区は歴史の街、風光明媚な金沢八景(1800年代に描かれた歌川広重の景勝地)も今に面影を留める自然に恵まれた地域です。

昭和 51 年 4 月に日本ボーイスカウト横浜第 100 団を発足(加盟承認 4522 号) 当時 C S 隊スカウト 29 名 B S 隊スカウト 8 名 指導者 12 名 団委員 11 名でした。昭和 60 年前半には、C S 隊 B S 隊スカウト共に 30 名を越す団になりました。100 団のスカウト指導方針は、ベーデン・パウエル卿の指導者は青少年の指導に当たりリーダーに「スカウティングというものは、何時の世でもその時代の環境や状況の応じて、プログラムや活動の進め方を、大人の豊かな想像力を持って、常に変えながら指導し、スカウト一人一人が自ら体験しながら学んでいくようにする事が大事であります。」この方針を基に各隊の指導者のプログラムを団会議団委員会で協議しより良いプログラムをスカウトに提供出来るようにし指導者のスキルアップの為に各研修・講習会に参加できる体制を整えて下ります。

100 団のシンボルマークになっている、“だぼはぜ”は金沢の海を元気よく泳ぎまわり、大きな目で世の中を見渡し、何にでも喰らい付いて、身体は小さいけれど、逞しい魚です。100 団のスカウトもこの“だぼはぜ”のように、大きな目を見開き、業況を把握し何事にも興味を持って物事に取り組む姿勢を養っております。そして 100 団のチーフは、大海原の青を基調に海面を大きくジャンプする、だぼはぜがデザインされて、だぼはぜスカウトが海をジャンプし立派な社会人・国際人になって欲しいと願いを込めたチーフです。今まで 100 団を巣立ったスカウト達は、そのチーフの願いに沿った活躍をされております。

育成団体名:日本ボーイスカウト横浜第 100 団育成会(スカウト保護者会)

育成会長名:

団委員長名:

団所在地:

初期登録日(初期登録人員):本文記載済み(60名)

登録人数:(平成 21 年度人員) 64 名



## 各隊の活動

### 1．ビーバー隊

経験豊富な隊長、心温まる女性副長の指導で明るく元気な活動を心がけ、ハイキングや時には、料理大会など感情豊かなスカウトになる様プログラムの作成をして下ります。

### 2．カブ隊

アウトドア活動を中心に 地域の社会見学・ゲーム・工作・ソングなどスカウト達の体験を基本とし物事を自ら創意工夫をし考え、仲間達との協調を養う活動を行って下ります。

### 3．ボーイ隊

感情豊かな年代、自然に親しみ自然を愛する活動と、スカウト同士の対話、指導者との対話を基に活動し、自立の考えを尊重する、ちかいとおきての実践。

### 4．ベンチャー隊

奉仕活動、身近なところのボーイ隊への奉仕、自分の興味のある事に対し自分での活動の企画立案そして行動。ベンチャー隊ならではの単独キャンプなど、スカウトの意見に沿ったプログラム。

### 5．ローバー隊

スカウトの手本として、奉仕活動、団、地域への奉仕活動。

